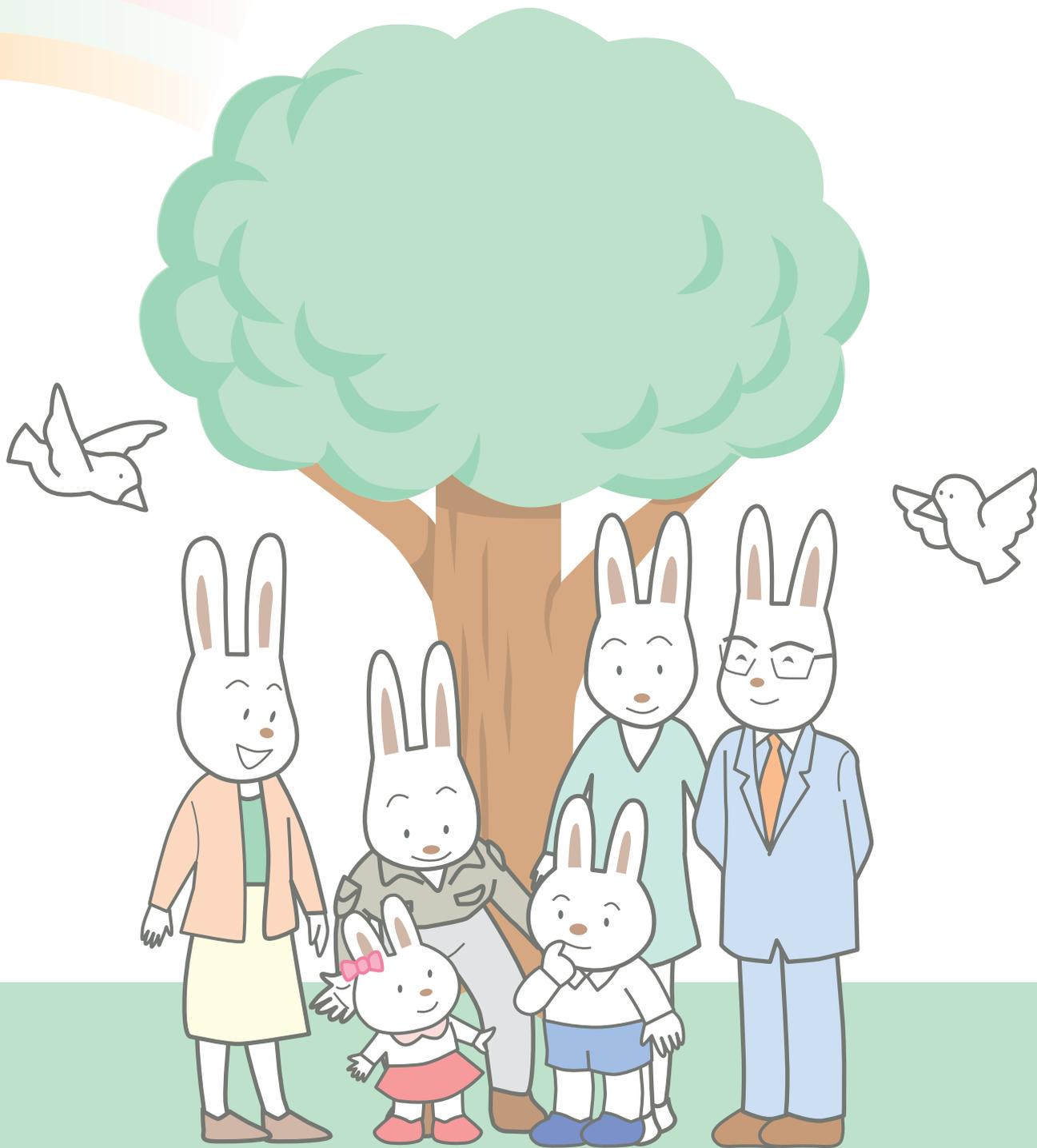


発達が気になる子どものためのQ&A  
療育支援パンフレット  
～ 共に支え、共に育つ～



平成20年10月発行

療育支援パンフレット作成検討会議

## ■はじめに

障がいのある子どもを育てる保護者は、地域の子育てグループに入っても疎外感を感じてしまうなどの理由から、子育てグループへの参加を敬遠しているケースも多く、気軽に育児についての不安や悩みを打ち明ける場が少ないという声を聞きます。

このような保護者の育児不安を軽減するため、奈良県では、障がいのある子どもを育てる保護者向けのパンフレットを作成することとし、平成19年度に「障害児療育支援パンフレット作成検討会議」を設置いたしました。

検討会議のメンバーは、県内で児童デイサービス事業や障がい者・児の相談支援事業を行うなど、実際に地域で療育支援にあたっている方に集ってもらい、現場の声も反映させながら、より保護者のニーズに応えられるよう、わかりやすく、活用してもらいやすいパンフレットづくりを目指しました。

そのような視点から、このパンフレットの体裁は、障がいのある子どもを育てておられる保護者の悩みや相談としてよく聞かれる内容とそれに対する一般的な回答を掲載する「Q & A形式」としました。質問内容については、保護者へのアンケート等を行いその結果を参考としました。

また、「コラム」として、障がいのある子どもを育てられた保護者の声や、療育に関わる専門家の意見なども掲載しております。

さらに、子どものライフステージに応じて、保護者の悩みにも違いが出てくることから、「就学前」「学齢期」「思春期・成人期」といったライフステージ毎にまとめるなど、活用してもらいやすいよう工夫しております。

このパンフレットは、障がいのある子どもを育てる保護者だけでなく、実際に児童デイサービス事業など療育支援に携わっておられる方々の参考になればとの思いも込めて作成いたしました。一人でも多くの方に活用していただければと思っております。

最後に、作成にあたり、パンフレットの企画、編集等にご協力いただいた検討会議の皆様へ深く感謝いたします。

このパンフレットが、障がいのある子どもを育てる保護者や関係者の皆様の子育ての一助となり、障がいのある子ども達が、いきいきと暮らしていくことにつながることを願っております。

平成20年 10月

奈良県福祉部障害福祉課

## ■もくじ

はじめに .....	1
<b>第1章 「就学前」</b> .....	3
生活面について	
行動面について	
就学に向けて	
兄弟関係について	
<b>第2章 「学齢期」</b> .....	8
生活面について	
行動面について	
学校について	
兄弟について	
放課後支援について	
<b>第3章 「思春期・成人期」</b> .....	12
生活面について	
行動面について	
<b>第4章 「地域での子育てについて」</b> .....	15
障がいへの理解について	
情報・行政	
<b>情報のページ</b> .....	17
児童に関する施設	
市町村が実施している療育教室（児童デイサービス等）	
相談窓口	
通級指導教室設置校	
医療機関	
<b>おわりに</b> .....	20

## 生活面について

**Q** 身辺面などで、一人でできないことがたくさんあり、集団生活など将来の子どもの姿を思うと不安になります。今後どのように関わっていけばよいのでしょうか？

**A** まずは一緒に行うところから始めましょう。声をかけたり、しっかりと見せて行うことで意識して取り組むように関わりましょう。少しずつ援助の手を減らしながら一人でできることを増やしていきましょう。手を出しすぎず見守りながら関わってください。完全にできなくても少しでもできればほめていくことから始めましょう。自信とやる気を上手に育ててください。

**Q** 甘えとしつけの境界線が分からず、子どもへの対応の仕方に悩みます。どのようにしたらよいのでしょうか？

**A** 子どもの気持ちを受け入れることは大切なことです。ただ、いつでもどこでも子どもの思い通りでは困ります。家ではある程度許されることでも外に出れば人の迷惑になることもあります。どこまでなら受け入れられるかという許容範囲を決め、その手がかりを示すことが大事です。普段から我慢をする経験や、気持ちの切り替えができ

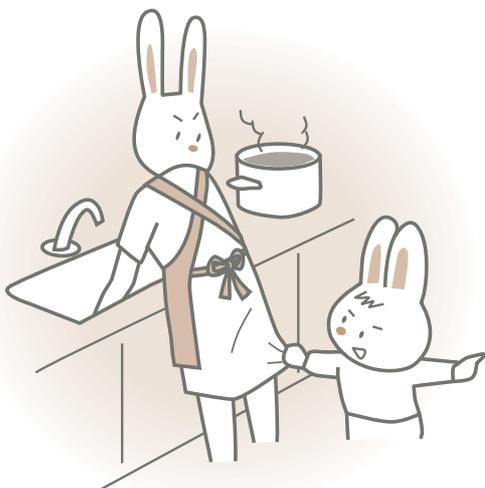
るように関わることが今後も生活をしていく上で必要になってきます。

**Q** 子どもの発達が気になるのですが児童精神科などの専門医の受診・診断を何ヶ月も待たなければなりません。それまでどう過ごせばよいのでしょうか？

**A** 病院の予約を取られたら、短時間で医師に状況の説明ができるようにこれまでの主な経過をまとめておくことがよいでしょう。または他で検査を受けられた結果や発達相談の結果など参考になるようなものをまとめておきましょう。診察はじっくりと診ていただきたいものですが、待ち時間のことを考えると本人にとっては苦痛な時間になります。やっと診ていただける時間が来ても疲れて眠ってしまったり、いつにも増して不機嫌だったりしますから、子どもの好きなもので時間をつぶせるアイテムを準備しておくのもよいでしょう。またそれまでの間、発達の相談機関などで、日常の配慮点など小さな目標を立てられるような相談をされてはどうでしょうか。

**Q** 偏食が多いのですが、改善策を教えてください。

**A** 極度の偏食の場合、健康面への心配もあります。まずは一緒に食べる大人が美味しそうに食べるところを見せ、食べることの楽しさを伝えましょう。また、何が嫌なのか（味、食感、素材が何か分からないことが不安など）を知ることが必要です。具材を小さくして混ぜるなど調理の工夫をすることで食べられる場合もあれば、難しい場合もあります。食べず嫌いな場合もあるので無理せず一口だけでも食べるところから始めることでその美味しさを知ることでもできるでしょう。その際は、少しずつ小皿に取り分けて与えるのもよいかもしれません。



**Q** 発語を促すためには、どのように関わればよいのでしょうか？

**A** 言葉の獲得は、毎日の生活の中で遊びや人との関わりを通して自然と身についていくものです。注目してみたり、指さしや模倣などは発語へのステップです。普段の生活の中からスキンシップを持ちながら一緒に物や絵本を見ながらお話をしましょう。うまく言葉にならないようなら「～と言いたかったんだね」と代弁してあげてください。物への興味や人に「伝えたい」という気持ち言葉につながっていきますので、「もっと〇〇してほしい！」という気持ちをおこさせる魅力的な活動を提供しましょう。

**Q** 保育所、幼稚園の受け入れ体制、サポート体制はどのようになっていますか？

**A** 幼稚園において障がいのある幼児を受け入れて、担任の配慮のもと指導を行っているところや、障がい児加配を配慮して行っているところがあります。しかし、市町村の事情により毎年加配等の先生がつくとは限りませんので、園長先生や市町村教育委員会の教育相談の担当者とはよく相談なさってください。

**Q** 日常生活を送る上で、医療ケア（胃ろうを造設し、気管切開しています）が必要な子どもです。母親が病気をした場合、なかなかみてくれる人もなく、必要な外出もままならない状態です。福祉サービスなどの利用もどのようにしたらよいか分からず、医療ケアが必要ということでサービスを断られないか心配です。入院や通院も多く、夫に協力してもらっても兄弟の世話が十分にできません。今後どうすればよいのでしょうか？

**A** 介護や医療ケアをしながら24時間体制の子育てをするには、母親一人では限界があります。近くに協力してくれる人がいたらいいですが、そう

でない場合も多いです。医療の必要な子どもをみてくれる事業所や施設はまだまだ少ないですが、医療サービスと福祉サービスを組み合わせて過ごされている方もいます。

一人ひとり障がいや病状も異なり生活状況も違いますので、一度、自治体の障害担当課や保健師さん、委託相談支援事業所などにお話ししてみてもはどうでしょうか。ご家族が安心して子育てできるように一緒に考えてくれます。また、同じようにがんばっておられるご家族もいますので、お話しすることで勇気づけられたり、情報交換もできます。お母さん同士お話しできるきっかけが病院などでもあるかもしれませんが、他に、親の会やサロンのようなところがないか、あわせて尋ねてみるのもいいかもしれません。

## 行動面について

**Q** 言葉が不十分で要求などを伝えられないため子どもの気持ちを分かってやれないことも多く、子どもがかんしゃくをおこしてしまうことがよくありますが、どのように対応すればよいのでしょうか？

**A** 簡単な身振り・絵カードなどでコミュニケーションをとることから始めてみましょう。自分の「意」が通らない時には「こんな風にすると伝わるよ」ということが分かったら本人も伝える努力をしようします。それにはまず子どもの発達を正しく把握することが大切です。

**Q** 5歳の子どもがゲームの勝ち負けにこだわります。絶対勝たなければ納得しないので困っています。どのように対応すればよいのでしょうか？

**A** 初めのうちは、そばで見ているだけで、子どもがやっていることや、感じていることを推測して、「言葉や動き」を介して関わりを持つような対応が必要です。例えば、「負けて残念だったね」、「勝ってよかったね」など共感することが大切です。

す。少し関わりが持てるようになったら、別のゲームなども取り入れ、難易度を少しずつ変化させることによって、「負け」があることが、次のゲームに意欲的に取り組みを発展させ、逆に楽しみが増していくことを感じさせていきましょう。勝ち負けにこだわることも成長につながっていきます。

**Q**発達障害のある子どもですが、外出先などで大きな声を出したり、激しく動き回って周囲の人に迷惑をかける場合があります。こんな時、子どもにはどう接すればよいのでしょうか？

**A**外的場合は本人にとって刺激が多く、見通しがつきにくい環境となります。大きな声を出す原因として『どのように行動すべきか状況の理解が難しい』『見通しがつかず混乱している』『苦手な音があるからその場から離れたい』『注目を浴びたい』などが考えられます。まずは、原因を考え予防を検討することが必要です。また、今何をすべきかを伝え、できた時にほめるという少しずつの取組みが次の良い行動につながっていくと考えられます。

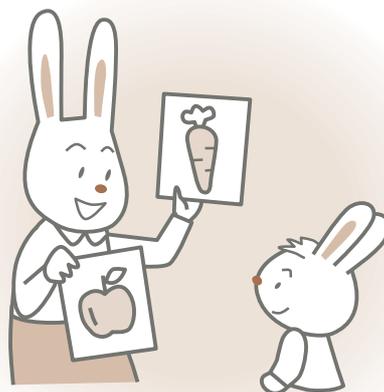
**Q**リハビリに通っていますが、年齢とともに体が大きくなり（筋肉の）緊張も強くなっています。抱っこや着替え・入浴・排泄の介助などがひと苦勞です。このまま大きくなり、緊張が強くなる一方ならどうしようと不安です。

**A**子どもが大きくなるにともなって介護量は大きくなります。まず大切なのは、お母さんが健康でいることです。そのためには、福祉サービスの利用などお母さんの息抜きタイムを確保していくことが必要です。大きなお子さんの介護方法ですが、先輩お母さんに聞いたり福祉機関に相談するなどしてみてください。筋肉の緊張に対する治療（リハビリを含めて）はゆっくりですが進歩しています。未来には不安もありますが、きっと希望もあると思います。

## 就学に向けて

**Q**コミュニケーション能力が低いので（言葉が遅いので）友達ができるか、いじめをうけるのではないかと心配です。スムーズに学校生活に慣れるにはどうしたらよいのでしょうか？

**A**社会生活を送る上で、コミュニケーションがとれることは大切です。言葉が遅い子どもには身体表現で感情を表したり、絵カードなどで気持ちを伝えることもいいでしょう。また、スムーズな学校生活を送るために、他の子どもへの指導を含めて、学校や担任の先生と密接に連絡をとることがいいでしょう。



**Q**子どもの就学を控え、特別支援学校か、地域の学校か、どちらに通わせるのが良いか悩んでいます。地域の学校でもがんばれるのではと期待しているのですが、学年が上がるにつれてついていけないか心配です。また、サポート体制はどうなっているのでしょうか？

**A**就学先として、学校見学を利用して特別支援学校や小学校の話を聞いたり、園内や市町村教育委員会の先生方とよく相談して決めてください。県内には盲ろう養護学校のほか、障がい種別に特別支援学級が設置されている小学校があります。未設置校については、就学指導委員会の相談

結果を受けて、市町村教育委員会で新設され、サポートを受けることができます。

## 兄弟関係について

**Q** 年齢が小さいので障がいのある兄のことが分からないようです。何かと兄のことが中心になり、弟が我慢することが多く、兄弟関係もうまくいかないため関わり方が分かりません。どのように関わればよいのでしょうか？

**A** 例えば、障がいのある子どもを訓練に連れて行くために兄弟が時間を割かれたり連れ歩かれたりすることがありますが、なぜ訓練が必要なのかは幼い頃から見聞きすることで理解ができていくのではと思います。反面、我慢を強いられていることも多く、日頃から兄弟にゆっくり関わる時間

を持つことも必要です。そのためには時には障がいのある子どもを福祉サービスなどで預けられることを考えてみるのも一案です。



### 《コラム》

#### ○小児科医の立場から

発達についての評価や診断について大切なことは、評価・診断によって子どもにとってプラスになるように生かしていくということだと考えています。そのためにお子さんと御両親を支えて、できれば協力してくれる存在を見つけることが大切だと思います。身内の方や身近な方で協力者がおられれば望ましいと思います。また患者会や支援相談所などの情報もあと役に立つと思います。皆で協力してお子さんを支援していくことで1つ1つ伸びてくれます。皆でがんばりましょう。

#### ○障がい受容について親の立場から

##### ① うちの息子は自閉症です。

1歳半の時、自閉症の中でも最も重い障害を持つ“折れ線方自閉症”と診断され医師から予後は良くないだろうといわれました。

これは今から12年前、子どもが2歳から3歳にかけて母子通園していた療育機関の卒園文集に寄せた私から子どもへの手紙です。

だいちゃんへ

ママにだけキスしてくれる 君が好きです

寄りそって 寝息をたてている 君が好きです

ごはんをいっぱい食べられる 君が好きです

それだけで……もう充分じゃないか！ それ以上 いったい何を君に望むのか!?

天井から差し込む光を仰ぎ見る君

風にゆれる木々をじっと見つめる君

水たまりに雨がはじけるのが楽しい君

高い所から飛び降りる君

風を感じ両手を広げ走る君

空を見上げてクルクル回る君

シャボン玉が好きな君  
 ふうせんが可愛い君  
 ママのまくらが大好きな君……

君は君の感性の中で

君の真理の中で 純粋に生きている 懸命に生きている  
 快・不快も、好き・嫌いも、恐怖心さえも……一切の妥協を許さない君  
 君には損得も、勝ち負けも、悪意も……何もない ただ Going my way  
 多くの人が、人間社会を生きていく上で 知らぬ間に手放してきたものを、君は  
 ずっと持ち続けているような気がして 時に羨望と敬意さえ感じる

君をむりやりこの世界に合わせようとは思わない  
 だけど

ママは君と話したい ことばでなくていいから伝えてほしい  
 君の可愛いこと、困っていること、わかってあげたい、助けてあげたい  
 少しでも君らしく、生きやすくしてあげたい

どうぞ、君の行く道をすこやかに……

(特別支援学校 中等部3年生)

- ② わが子は幼い時、命にかかわる大きな病気にかかりどん底を味わった。障害と病気に向き合いながらも、わが子はもう27才。障害のある子供と共に……の生活は、私にとって特別でなく普通であり、苦勞と感じたことはあまりなかったように思う。将来のことを考えて道筋をつけてあげることは大事だけど、あれこれ先のことを憂えるより、一日一日を精一杯楽しく生きる、「昨日を謝し今日を楽しみ、明日へ生きる」……この積み重ねが大切と感じています。(27歳 女性)
- ③ 娘は今十歳です。産まれてすぐダウン症とわかり、希望が花咲く様、咲希と名づけました。でも名前をつけた時の私の気持ちは複雑でした。でもひとつひとつ希望を持って毎日を過ごしていると沢山の人に出会いました。泣きました。笑いました。沢山の人達との暖かい気持ちのやりとりに支えられました。一人で無理せずあのままの自分や娘でいると生きるって何が大切なのか何かが見えてくる様に思います。(小学校 5年生)
- ④ 現在、我が子は公立小学校の6年生。地域の方やお友達、保護者の方、先生方に支えられ、のびのびと楽しい学校を送っています。  
 発達の遅れが気になり幼い頃より保育園に通っていましたが、先の小学校のことを考え、地元の幼稚園に通いました。幼稚園時代ですら遅れが目立ち、お友達の中で浮いてしまったり、迷惑をかけることも多く、居心地の悪い思いをしていた私に、  
 「迷惑をかけるのはお互い様。皆で迷惑のかけ合いっこしましょうよ」と笑って言って下さったお母さんの一言で、これまで頑張ってきた。今も更に迷惑かけつばなしの毎日ですが、8年間の長いつき合い。本人のできない事には皆でルールを考え、うまく参加できるように工夫してくれたり、『悪いことは悪い』と体当たりで教えてくれる友達。私もこの子を育てたおかげで、「当たり前前の方が、当たり前前にできることが、どんなに素晴らしいことか」身にしみてわかりました。皆それぞれ能力の違いはあるけれど、その中で精一杯頑張ること、お互いの違いや良さを認め合うことができれば、それで良いのではと思っています。  
 そんな思いから、現在、公立小学校で(我が子が通っている学校とは違う)特別支援教育支援員という職に就いています。悪戦苦闘の日々ですが、一人でも多くの子ども達が、自分の能力の限り一杯に、楽しく生きていってくれることを願って、今日も頑張っています。(小学校 6年生)

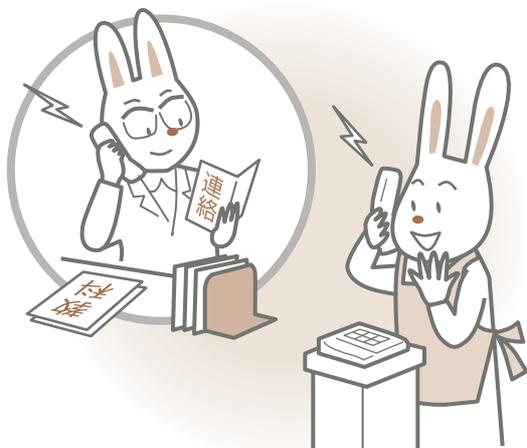
## 生活面について

**Q** 特別支援学校に通っているのですが近所に友達がいませんが、地域との交流はどのようにしていけばよいでしょうか？

**A** 地域の行事に参加することなどにより、交流の機会を増やしてみるのもよいでしょう。最近では、特別支援学校と地域の学校との個人交流を実施しているところもありますので、交流希望については学校の先生とよく相談してください。

**Q** 発語がなくコミュニケーションのとり方も分からないので、学校で本当に楽しめているのか心配です。学校での様子を知りたいのですがどのように連携をとればよいでしょうか？

**A** 幼稚園や保育所と違って、送迎の関係で小学校や特別支援学校では学校の先生と直接話しができる機会が減ることもあります。このような場合、家庭と学校の連絡帳を利用して、家庭内のことを伝えるとともに、先生から学校での様子を知らせてもらうことがよいでしょう。また、心配しすぎて教室をのぞこうとする方もいらっしゃいますが、そういう行動が余計子どもの問題行動を誘発させることもありますので、連携がとれれば安心して任された方がよいでしょう。



**Q** トイレの利用方法など社会的なマナーをどのように伝えればよいでしょうか？

**A** 外出先でトイレに行けなくて困るということは少なくありませんが、その「困る」ことが今に始まったことでないならば、場所や時間や臭いだったりいろいろな理由が子どもにはあるはずです。何が原因なのか探ることで解決の糸口が見つかるかもしれません。また、トイレ以外でも公共の場所での行動に戸惑う子どもの姿をよく見かけますが、良い経験を重ねることが最も重要なことであるように思います。ただ、それは良い経験です。いやな経験をいくら重ねてもその場面になるとフラッシュバックで蘇り、マナーなど教えることさえできなくなります。良い経験を幼い頃から積むことで社会のルールやマナーを受け入れてくれるのではないのでしょうか。

## 行動面について

**Q** 急な走り出し、落ち着きのなさ、こだわりなどに戸惑ってしまいます。どのように関わればよいでしょうか？

**A** 気持ちのままに行動してしまうことが多いですが、事前に、「手をつないで歩く」など約束しておくことも必要です。「歩く」「止まる」というように単純明快に分かりやすく伝えましょう。こだわりについては、どこまでが許せる範囲なのかを決め、その分かりやすい手がかりを示しつつ関わるのが大切です。

**Q** 小さい子どもが持っているおもちゃなどに興味を示して取り上げて怪我をさせてしまうのではないかと心配です。注意しても注意されたことが理解できず、同じことを何度もします。どう対応すればよいでしょうか？

**A** 他人に手を出しそうになった時には、見逃さ

ずにその行為を止めてください。そしてなぜ手を出したり取り上げようとしたのかをこどもの気持ちを代弁し感情的に叱らないようにしましょう。注意されても理解できず繰り返し注意をしなければならない場合は、他人に手を出していない時により積極的に関わりを持つようにし、時には新しいアイテムを提供するなどして同一集団において他人に「手を出す」体験を減少させることも必要になります。

## 学校について

**Q** 肢体不自由児に対する学校への設備面の希望や要望は誰に伝えたらよいのでしょうか？ また、長期入院中の子どもは、欠席扱いになるのでしょうか？

**A** 肢体不自由養護学校については、設計の段階から施設・設備面でいろいろと配慮しています。しかし、小学校の肢体不自由学級ではまだまだ不十分なところがあります。設備面の要望については、園を通じて学校へ伝えていただくといでしょう。しかし、すぐに要望に応えられるとは限りません。

また、長期入院中は原則として欠席扱いになりますが、院内学級のある病院では転校手続きをとれば、転校生の児童として出席扱いになります。

**Q** 発達障害に対する理解や啓発はどのようにされているのでしょうか？

**A** 発達障害については、マスコミでも取り上げられるようになり、国民の関心があがってきています。県では、発達障害支援センターの設置による相談・支援機能の充実を図るとともに、県立教育研究所と学校教育課が連携し、講演会や冊子・リーフレット発行をし理解啓発に努めています。また、県とNPOが連携して公開講座を開催したり、PTAなどを対象とした講座を開催したりしています。

**Q** 年度途中で、特別支援学校へ転校できますか？

**A** 子どもさんの症状が急に悪化したり、事故などにより緊急を要する場合は、臨機応変に対応しています。しかし、基本的には市町村教育委員会の就学相談などで、子どもさんがどこで学ぶのがいいのか相談しましょう。

## 兄弟について

**Q** 障がいのある兄弟の理解はいつできるのでしょうか？ また兄弟にどのように説明すればよいのでしょうか？(兄8歳・妹4歳の場合)

**A** 兄弟との関係は難しいですね。でも兄弟だからこそ解決できるとも思います。特に男の子は黙っていることが多く、小爆発を繰り返し兄弟の障がいを認知していくのではと考えます。つまり葛藤はありますが年相当の葛藤を経て兄弟関係を築いていくようです。ただ、一般的な中傷や差別的な言動に遭遇した時には「？」だけで済ませてしまうことがあるかもしれません。その際には、親として感じたこと(例えば「ひどいこと言う人もいるもんだね。お母さんだって腹立つわよ！」でも、世の中には言っても分からない人がたくさんいるから相手にしないことも必要ね)と話してみるのもよいかもしれません。10歳前後になったら理解ができると思いますので、障がいのある妹の話はしっかりしてあげてください。妹が生まれる前の話し、妹が生まれた時の話し、障がいがあることが分かった時の話し、そしてこれからどうするかの話とお兄ちゃんの役割など(「手伝って」、「面倒みて」ではなく、妹にはどうしてあげたいか聞いてみてください)きっと分かってくれます。

## 放課後支援について

**Q** 放課後支援について詳しく聞かせてください。

**A** 県内では学童期放課後の支援をする場所として各市町村が（主に児童福祉関係）、学校の近辺に設けています。所によっては市町村や社会福祉機関が設置したり、保護者が中心となっている所もあります。障がいがある児童や支援の必要な児童が利用するには全く門戸が狭いというわけではありません。しかし児童数や支援員の体制によっては事情が違います。教育委員会との連携が進む市町村もありますのでお住まいの窓口にお尋ねください。なお、県子ども家庭局・子ども家庭課が中心となって発達障害児の理解や支援についての講座や、勉強会を行うなど積極的な動きも見られます。



### 《コラム》

#### ○特別支援教育について～特別支援教育巡回アドバイザー

友だちとつしよに明るく楽しい学校生活を送ってほしい。そして、自分の持つ力を伸ばし、将来、自分らしく生きていつてほしい。——学校教育はそのための力を育てていく営みです。

障がいがある場合、障がいや子どもの状態に応じた教育の内容や方法を工夫しなければならないこともあります。それを考え、具体化していくのが特別支援教育です。

平成19年度から、学校では従来の「障害児教育」が「特別支援教育」に変わりました。この教育の対象には、LD、ADHD、高機能自閉症等も含まれています。

各学校には、特別支援教育に関する相談に応じるコーディネーターがいて、一人ひとりに合った教育方法について話しあう校内委員会が設置されています。

担任・保護者を中心に、関係するいろいろな人や機関とも連携し、子どもの成長を育む取組について考えていく、学校教育はいま、こんなふうに動き出しています。

#### ○保護者の体験から

##### ① 友達の存在はとても大きいです。

交流保育最終日、友達にみんなと違う事の説明、息子への関わり方、困っている時は助けて欲しいとお願いした事で息子の対応について先生に説明してくれた子もいました。

友達と息子の橋になれるのは母であり先生です。先生とは小まめに連絡をやりとりして一日の様子を把握して、息子に話しました。（会話が理解できにくくても伝えようという思いはわかってくれるから）たくさん話して、遊んで関係を深めました。

（特別支援学校 高等部1年生）

- ② 長男は、養護学校（訪問教育）の小学2年生です。体調を崩す事が多く、1日を元気に過ごす事で精一杯で、小学校になる事は遠い世界のように感じていました。  
自分で動くことも話すことも意思表示すら難しい子が「何を学べるだろう？」と思いましたが、気づけなかった発見が沢山ありました。表情などで、好きな事・嫌いな事がわかるようになってきました。秘められた可能性を、これからも先生方と一緒に見つけていきます。  
(特別支援学校 小学部2年生)
- ③ 大好きがいっぱい 只今中三!!  
中庭のブランコ、運動会、教室、学級係で毎日出欠表を届ける保育室。待ちきれない給食室。プールに、中学部に入って多くなった調理実習。大好きな先生に友達。書き切れない息子の大好きが一杯の養護学校。親子で安心して、思いっきり楽しく学校生活を送っています。マンツーマンで先生が関わって下さり、息子の成長や日々の出来事に一緒になって大笑いしたり、喜んだり、時には悩みの相談をしたり。学校で多くの方に関わって頂き、今では見違える程、笑顔が増えました。この笑顔を見る度、心底、感謝の思いです。今年でいよいよ中学も卒業です。今は修学旅行に向けて事前学習中です。6月、元気に行つて来て欲しいと思います。これからも、1日1日を身体一杯楽しんで、充実した学校生活を送って欲しいです。  
(特別支援学校 中学部3年生)
- ④ 我が家には、発達障害を持つ小学2年生の息子がおり、現在、地域の小学校の普通学級に通っています。  
2才から療育施設に通い始め、それからは進路先を決める度に、とても悩み、迷い、療育施設の先生等にも相談した結果、地域の幼稚園・小学校を選択し、現在に至っています。  
年齢が上がるにつれ、お友達や上級生と衝突する事が増えてきたり、学習内容が難しくなってきたりしており、これから先のことを考えると、不安や悩みは尽きません。  
でも、近所を歩いていて、私たちに暖かい声をかけてくれるお母さんや同級生に会うと、息子の居場所はここにちゃんとあると思えてうれしくなり、元気が出てきます。  
これからも、いろいろな事があると思いますが、「大きくなったら、ロボットを作る人になりたい」という息子の夢を叶えられるように、親子でコツコツがんばっていきたくと思っています。  
(小学校 2年生)
- ⑤ 地域の小学2年生です。息子は心臓疾患と知的障害を持っているため、特別支援学級(病弱児学級)に在籍しています。担任の先生と連絡帳を通じて積極的に情報やお互いの意識を伝え合っています。学習面では、個別に指導をしていただいております。健康面や生活面への配慮も細やかで安心です。通常学級の友達と多少のトラブルはあるものの、毎日楽しそうに下校して来る息子を出迎えることが、一番嬉しい瞬間です。  
(小学校 2年生)
- ⑥ 娘は5歳の時から、地域の幼稚園に通っています。「おむつを替える事は、みんながトイレでおしっこやウンチをしてすっきりして気持ちよくなる事と同じなんだよ」と先生は不思議がる子供達に、このような説明をされていました。そして、当たり前のようにおむつ替えを手伝っていくようになる姿を嬉しく思っていました。よだれが出る姿も幼児期から見ているので、抵抗もないのでしょう。  
現在、娘は5年生になります。重度の脳性麻痺で移動は車椅子、言葉も話せません。休み時間は、プレイルーム(障害児学級の部屋の1つ)の広い畳の上で横になって過ごす事が多いのですが、いつも数人の男女と一緒に寝転がっています。同じ時間と空間を共有している感じです。この部屋は、クラス・学年に関係なく誰でも出入り出来るので、娘の回りはお友達の声絶える事はありません。同世代の子供達と一緒に成長できる!!  
まさに、今が彼女の青春時代だと思います。  
(小学校 5年生)

## 生活面について

**Q**人と接することが好きで特に女性を見るとからだを触りに行きます。制止すると暴れて大変です。今後どう対応したらよいか気をつけることなどを教えてください。

**A**私たちは体の成長と共に性欲が発達していきます。恋愛や結婚をし、子どもが欲しいと思う感情は当然です。本人が性教育について学んだり、性のカウンセリングを受けるなど、社会的マナーについての知識を得ることも必要です。

予防的には、想定される場面から距離をおいておくなどの対応が懸命です。また、そのような行為を行い、制止により暴れるなどの行動に発展してしまった場合は、まずは気持ちの高揚を落ち着かせるような対応をとる必要があります。その後、してはいけないことは具体的かつ視覚的に説明をして伝えていくことが重要です。また、異性間のより望ましい行動を身につけさせるため、グループ活動に参加することも大切です。

「性的行為による社会的な善悪」については、説明しても理解することが難しい方もいます。対応が難しい方については、医療的ケアにより衝動的な行動をおさえるなどの、予防的な対応を試みることも有効な方法だといえます。

**Q**重度の障がいを持つ子どもの親です。親亡き後のケアについて教えてください。

**A**例えば、ケアホームなどによる少人数での支援方法が考えられます。医療的ケアが整備された環境の提供や、夜間の人員配置など、まだまだ課題を多く含んでいますが、個々の働きかけにより実現は可能であると思われます。他府県では、重度の障がいがある方が、ケアホームを利用して生活されているという例もあります。

「親亡き後」の不安を解消するには、介護や支援について社会全体で支えることが必要です。以前と比べれば、在宅福祉サービスは充実し、介護

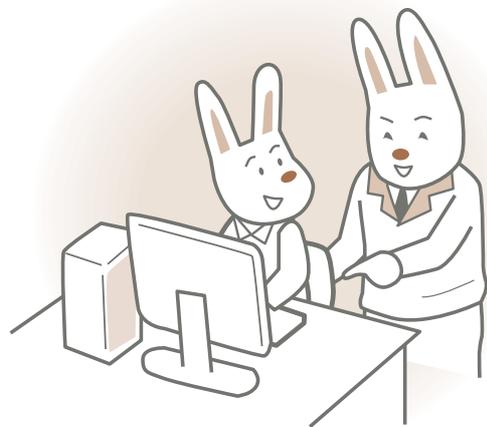
が社会化しつつあります。居宅介護事業<sup>(注1)</sup>、地域生活支援事業<sup>(注2)</sup>や、グループホーム<sup>(注3)</sup>、ケアホーム<sup>(注4)</sup>などの社会資源を充実し、社会全体での支援体制の構築が図られることが必要です。

**Q**将来、仕事をしていけるか心配です。自立に向けてどのようなことを身につけておけばよいでしょうか？

**A**「仕事」と言えば、技術面に気が向いてしまいがちですが、普段の生活の中で、いろいろな人と関わりを持つことで社会性を身につけることも大切です。

現在、多くの方が、仕事への定着が難しくなっている大きな原因に、社会性や対人関係がうまく築けないということがあげられます。対人関係でつまづかないためにも、他人と上手くコミュニケーションがとれるよう、社会との交流会などへ積極的に参加し、対人関係におけるスキルを身につけておくことも必要です。

就学中から職場実習などを多く経験しておくことも重要です。「仕事」のある生活に心身共に慣れる、新しい登場人物（上司、先輩等）との関係性を理解する、仕事の内容と本人の能力のマッチングを図るなど、社会に出るための不安をできるだけ少なくしておく準備が必要です。



**Q** 重度の障がいがあります。学校を卒業すると居場所が段々なくなり、その後の生活が不安です。どのようなサポートがありますか？

**A** 現在は、各障がい者支援機関にて、自立訓練事業（注5）、生活介護事業（注6）や地域活動支援センター（注7）などにより、生活支援や創作活動が行われたりしています。また、サロン活動などの居場所づくりについても、各関係機関が積極的に活動し、新しい活動場所や社会資源づくりが行われており、様々な方面からのサポート体制づくりが展開されています。しかし、重度の障がい者の活動できる場所がまだまだ不足しており、新たな資源を開発することが望まれます。

各市町村には、障がい者の相談窓口があり、また市町村委託相談支援事業所（注8）でも生活相談を行っています。相談支援専門員などが、生活全般のサポート体制について支援しています。個別のケアプランを作成するなど、一人ひとりの障がい特性に合った対応が行われています。同じ悩みを持つ子どもの親の会や、地域生活支援センターなどに積極的に出掛けてみましょう。

## 行動面について

**Q** 親の知らない間に一人で外出してしまい、行き先が分からなくなります。どうすればよいでしょうか？

**A** 無断で外出してしまう行動については、日常から気になっていることを達成したいという気持ちから衝動的におこる可能性もあります。家族や支援者が、日常から本人の気持ちを理解、察知し、ストレスにならないような配慮が必要です。

外出してしまう行動については、日常からよく把握しておき、駅や警察、地域住民などとよく連携をとる必要があります。緊急時の対応についても、迅速に機能するような地域ケアシステムづくりも必要です。

- （注1）入浴・排泄・食事の介助など、在宅生活における介護サービスを行います。
- （注2）市町村及び都道府県が地域の特性や利用者の状況に応じて柔軟に実施するサービスです。
- （注3）地域にある住宅において、数人の障がいのある人が共同で生活する形態で、専任の世話人によって、食事や日常に必要なサービスの提供や、相談を行います。
- （注4）グループホームの対象となる人よりも介助の必要な人に、相談その他日常生活の介助を行います。
- （注5）身体・知的・精神障害のある人に対し、自立した日常生活又は社会生活を営むことが出来るよう、身体機能や生活能力の向上のために必要な訓練等を行います。
- （注6）常に介護を必要とする障がいのある人に対し、主に日中に障害者支援施設等で行われる入浴・排泄・食事等の介護や創作的活動・生産活動等の支援を行います。
- （注7）障がいのある人等を通わせ、地域の実情に応じ創作的活動又は生産活動の機会の提供、社会との交流の促進等に便宜を供与する地域活動支援センターの機能を充実・強化することにより、障がいのある人等の地域生活支援の促進を図ることを目的とする事業です。
- （注8）障がいのある人等からの相談に応じ、必要な情報の提供等の便宜を供与することや権利擁護のために必要な援助を行うことにより、障がいのある人等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにすることを目的とする事業です。



## 《コラム》

### ○保護者 本人の声

#### ①就労に向かって

長男は、中学二年生頃から不登校になり、精神や心の健康を害するようになりました。根気が続かず、自己中心的で、対人関係を築く事が出来なくなり、その為が暴力的になり、種々の精神症状も出現し、入院も致しました。

高校卒業後、就職活動するも、面接等で病気の人は……と言われてたりして就職に結び付くことはありませんでした。その社会的偏見などで本人は、傷つき、悩み、怒ったりして不安定な日々が続きました。適切な対応もできず、辛い毎日が続きました。

この頃、何度か相談に乗って下さっていたソーシャルワーカーさんより、障害者授産施設を紹介されましたが、本人がその気になって通所するまでには長い時間がかかりました。

研修期間も施設では、種々の状態の人達がおられたので、利用者の人達を理解できず、帰宅すると毎日文句を言ったり怒ったりしておりました。親としては、子供の話をしっかりと聞いてやり、その気持ちや感情を受け止めることしか出来ませんでした。長男の言動に問題がある時も、取りあえず話を聞き、気持ちが落ち着いた頃にゆっくりと諭しました。時間がかかりましたが次第に、みんなの事も理解しようと努力するようになり、友人も出来ました。少しずつではありますが社会性が身に付いて参りました。

施設では、自分という存在を認めてもらっている、居場所がある、と言う事が本人の自信につながったようです。まだまだ課題が残っているものの、施設の人達と共に仕事をしていく中で、互いに理解し合い成長し合っていると思います。又、そんな本人に地元の方が声をかけて下さり、子ども会の野球チームのお手伝い等の活動を通して、多くの人々と出会うことが、本人の気持ちを高める事に繋がっていると思います。

それでも時々、今でもいろいろな人達と思いがぶつかり合い、その都度親としてどう接していくか試行錯誤の毎日ですが、決して今の状態に甘える事なく、コツコツと今なすべき事を積み重ねていくしかありません。

今日も、彼のことを一人の人間として尊重して下さるスタッフの皆様を支えられながら、少しずつではありますが、就労という目標に向かって歩んでおります。  
(21才 男性の保護者)

#### ②夢が叶った！

僕は養護学校を卒業して就職しました。

一般企業では四月から仕事をしています。

養護学校の先生は、何度も何度も会社へ実習させてくれました。

仕事は難しかったですが頑張りました。

みんな親切にしてくれました。

三月に試験を受けました。

面接は挨拶や返事をしっかりしました。

「うちの会社で働いてください」と言われた時はうれしかったです。

(18才 男性本人)

#### ③体が動く限り働きたい

小さな頃から体の右側にマヒがありましたが、職業安定所(今のハローワーク)を通じて20才頃からバスで40分かけて、靴下関係の会社に通っていました。その頃はまだ症状が軽かったので、自分一人でほとんどのことが出来ました。15年勤めて、年と共に症状がひどくなり、また、会社も経営状態が悪くなり、辞めざるを得なくなり退職しました。

しばらく家にいましたが、仕事がしたくて、福祉課に相談に行くと、作業所を紹介してくれました。そこで、さをり織りに初めて出会い、すぐにとりこになりました。

動きづらい足でも、座ったままで、きれいな作品を仕上げる事ができます。それから、ずっと、さをり織りを続け、今では私の作品に注文まで来るようになりました。

それでも、昔、会社にいた頃より、給料(工賃)は、とても少ないですが、障害者年金を合わせた額で、節約して暮らしています。  
(52才 女性本人)

## 障がいへの理解について

**Q**うちの子どもの場合、障がいはある程度見た目で見るとは思いますが、誤解されていることも多々あるように感じます。近所の方には正しく理解して欲しいと思っています。でも説明しても理解が得られなかった場合にはどうしたらよいかと思うと不安です。子どもの障がいについて、近所の方にうまく伝える方法が知りたいです。

**A**1つの案としてご近所を散歩することで「〇さん宅のお子さん」を覚えてもらいます。理解してもらうことの最初は知ってもらうこと。どんなに詳しい説明をしてもなかなか理解までは届きませんが知ってもらうことで関心をもってもらい次はどうしたらいいにつながるように思います。時間をかけて付き合うことで理解が進むように思います。

**Q**うちの子どもは発達障害児と診断を受けていますが、見た目では障がいがないように見えるためか、大きな声を出したりすると近所の方に「しつけがなってない」とよく言われてしまいます。このような場合、どのように説明すれば理解していただけるのでしょうか。またこんな時、誰に相談すればよいのでしょうか？

**A**同年代の子どもさんに比べて苦手なことが極端に苦手だったり、期待されることができなかったりすることがあるとお医者さんや専門家の方から説明されていることを伝えてみてはいかがでしょうか。また、みんなと仲良く生活するために勉強（トレーニング）に通っていることを説明するなどお子さんやお母さんお父さんが頑張っていることも分かってもらえるといいかもしれません。相談先ですが、在籍している学校や保育所、幼稚園の先生、通っておられる療育機関の先生などお子さんのことをよく知っている方に相談することが1つの方法だと思います

## 情報・行政

**Q**障がい児を受け入れてくれる施設や事業所が少なく、保護者が病気で頼みたい時も、ヘルパー不足で断られ入れないのですがどうすればいいでしょうか。

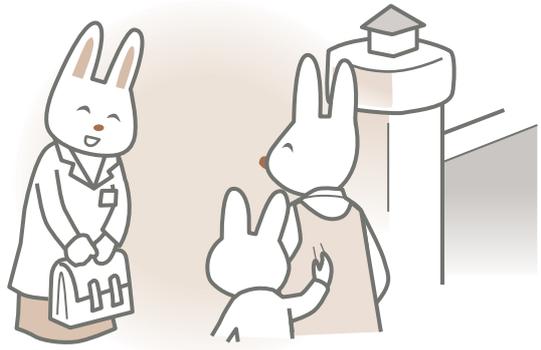
**A**確かに地域によっては施設や事業所が少なかったり、事業所によってはいろいろな事情で希望通りに対応してもらえない時もあるかと思いますが、そういう場合は、お住まいの市町村の障害福祉担当課や委託相談支援事業所で相談されると思います。福祉サービスや事業所の紹介などの相談を受けています。詳しい委託相談支援事業所については市町村の障害福祉担当課にお尋ねください。（情報のページを参照）



**Q**緊急事態が発生した時やそれに備えてどんなサービスの利用の仕方がありますか。

**A**事前に、緊急時すぐにサービスが受けられるように市町村の窓口（障害福祉担当課）でサービス利用の手続きを行っておきましょう。サービスにもいろいろな種類がありますのでどういう時にどんなサービスが必要なのかをよく検討した上で申請してください。普段からヘルパーを利用したり、ショートステイの経験をしておくと施設や事

業所にもお子さんのことを良く理解してもらうことができ、本人の安心感も違ってくるかと思えます。



## 《コラム》

### ○保護者の声

「ねえー、聞いてー」ケアの始めにその日の様子を伝える際、こう口火を切るのもしばしば。自分に持病が見つかったのをきっかけに、お風呂介助からお世話になり、次子の出産に続き、今は兄弟の子育てもあり、週5日主に夕方手助けして頂いています。当初は物理的に体の負担が楽になるのが目的でしたが、いろんな事を相談でき心を軽くしてもらい、本人の自立を促すとともに、家族の力強いサポーターになってもらっています。

(特別支援学校 中等部1年生)

3人兄弟(三つ子)のうち2人に障害があります。3人の子ども達を日中母親1人で見るには限界があるため、毎日、朝と夕方にヘルパーさんに来て頂き、支援を受けています。朝は兄の保育園への送迎時、また買い物に行く時などに子ども達を見て頂いたり、通院や入浴の介助もお願いしています。健診日に他の兄弟が急に病気になった時には日程の変更が難しいので急をお願いをして子どもを預かって頂いた事もありました。

みなさんの支えがないと1人では大変です。サービスを利用できたことで精神的にも、肉体的にも随分楽になりました。子ども達も今ではヘルパーさんとお出掛けが楽しみでわくわく気分でお出掛けに行きます。

(保育園、通園施設 4歳)

福祉サービスを利用したのは、他の兄弟たちともゆつくりと関わってやりたいという思いが一番の理由でした。兄の学校の用事や弟の保育園への送迎、病気などで大変な時には移動支援を使って娘の通う通園施設までの送迎をお願いしたり、居宅介護を利用して朝の身支度や薬を飲ませてもらうなど家で見て頂けるのでとっても助かっています。毎日パタパタと大忙しの中、福祉サービスのない生活は考えられません。

(通園施設 6歳)

## ■情報のページ

### 児童に関する施設

施設名	所在地	電話番号	種別
(社福)宝山寺福祉事業団 仔鹿園	奈良市古市町1-2	0742-62-5811	知的障害児通園施設
(社福)心身障害児総合通園 センター ・わかくさ愛育園  ・さくら	磯城郡田原本町大字多722番地	0744-32-0200	・知的、肢体不自由、 難聴児通園施設 ・重症心身障害児(者) 通園施設(A型)
(社福)東大寺福祉事業団 東大寺福祉療育病院 ・東大寺整肢園 ・東大寺光明園 ・華の明	奈良市雑司町406番地の1	0742-22-5577	・肢体不自由児施設 ・重症心身障害児施設 ・重症心身障害児(者) 通園施設(A型)
奈良県立登美学園	奈良市菅野台2番43号	0742-45-0691	知的障害児施設
(社福)愛の集い学園	大和高田市根成柿340番地の1	0745-52-5174	知的障害児施設
(社福)吉野学園	吉野郡大淀町下淵1642-20	0747-52-7631	・知的障害児施設 ・重症心身障害児(者) 通園事業(B型)
(社福)成美学寮	奈良市柳生下町445	0742-94-0205	知的障害児施設
(社福)五條学園	五條市島野町744	0747-23-5862	知的障害児施設

### 市町村が実施している療育教室（児童デイサービス等）

市町村	教室名	所在地	電話番号
奈良市	みどり園	奈良市左京5-3-1 奈良市総合福祉センター内	0742-71-0770
大和郡山市	発達支援センターめばえ	大和郡山市植槻町3-8 大和郡山市社会福祉会館内	0743-53-6534
天理市	天理市療育教室 杉の子学級	天理市丹波市町196-1	0743-63-4598
橿原市	橿原市心身障害児訓練施設 かしの木園	橿原市久米町678	0744-27-8585
桜井市	児童デイサービス クローバー学園	桜井市桜井535-1	0744-42-2743
生駒市	こども支援センター あすなろ	生駒市元町2-14-8	0743-75-0530
香芝市	児童デイサービス ひまわり園	香芝市逢坂1-374-1 香芝市総合福祉センター内	0745-76-7107

## 相談窓口

### • こども家庭相談センター

18歳未満の子どもに関するあらゆる問題についての相談・援助。子どもの発達や情緒面の相談、お母さん自身の育児不安の相談を受けています。また、療育手帳の判定も行っています。

所属名	住所	電話番号	管轄区域
奈良県中央 こども家庭相談センター	奈良市紀寺町833	0742-26-3788	奈良市、大和郡山市、天理市、 桜井市、生駒市、宇陀市、宇 陀郡、生駒郡、磯城郡、山辺 郡
奈良県高田 こども家庭相談センター	大和高田市大中17-6	0745-22-6079	橿原市、大和高田市、香芝市、 御所市、五條市、葛城市、北 葛城郡、高市郡、吉野郡

### • 市町村保健センター（母子保健相談窓口）

乳幼児健診以外にも発達相談を行っています。また、児童デイサービス以外にも各市町村が実施している療育教室もありますので詳しい内容については窓口でお問い合わせください。

### • 市町村委託相談支援事業所

福祉サービスの利用調整や援助、社会資源の活用、社会生活力を高めるための支援、介護相談、情報提供などを行います。詳しくは市の障害福祉担当課にお問い合わせください。

### • 奈良県発達障害支援センター「でいあ〜」

発達障害（自閉症・高機能自閉症・アスペルガー症候群・LD（学習障害）・ADHD（注意欠陥多動性障害等）のあるご本人、ご家族、関係施設、関係機関のスタッフが利用対象になります。相談支援、発達支援、就労支援、普及啓発・研修などを行っています。

（連絡先） 奈良市古市町1-2 奈良仔鹿園内 TEL 0742-62-7746

### • 奈良県教育研究所特別支援教育部

学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、高機能自閉症等への支援をすすめています。そのために理解啓発をはじめ、特別支援教育コーディネーターの養成や特別支援教育巡回アドバイザーによる相談支援の充実を図っています。

（連絡先） 磯城郡田原本町秦庄22-1 TEL 0744-32-8201

## 通級指導教室設置校

通常の学級に在籍している軽度の障がいのある児童生徒に対して、通級指導教室において、障がいに応じた指導を行っています。通常の学級における指導と通級による指導とを織り交ぜながら、指導の充実を図っています。通級には、自校通級と他校通級があります。市町村を越えて他校通級をしているところもあります。詳細は、設置している市町村教育委員会にお問い合わせください。

学 校 名	所 在 地	連 絡 先	種 別
橿原市立畝傍南小学校	橿原市見瀬町164	0744-28-0105(直通)	言語
奈良市立椿井小学校	奈良市椿井町25	0742-23-7062	難聴
奈良市立済美小学校	奈良市西木辻町5-2	0742-22-2724(直通)	言語
奈良市立あやめ池小学校	奈良市あやめ池南9-939-39	0742-43-4446(直通)	言語
奈良市立鳥見小学校	奈良市鳥見町3-11-2	0742-43-4723	言語 LD等
生駒市立生駒小学校	生駒市山崎町4-44	0743-75-1408(直通)	言語
平群町立平群東小学校	生駒郡平群町吉新2-2-13	0745-45-0004	言語
大和郡山市立郡山北小学校	大和郡山市北郡山町115	0743-53-2807	言語
天理市立丹波市小学校	丹波市町180	0743-63-4110	LD等
香芝市立下田小学校	香芝市下田西2丁目9-41	0745-79-8707(直通)	言語 LD等
大和高田市立高田小学校	大和高田市大中東5-15	0745-22-0251	LD等

## 医療機関

機 関 名	所 在 地	連 絡 先
奈良県総合リハビリテーションセンター	磯城郡田原本町大字多722	0744-32-0200
奈良県立医科大学付属病院	橿原市四条町840	0744-22-3051
奈良県立奈良病院	奈良市平松1-30-1	0742-46-6001

- ・この他にも小児の発達外来を行っている民間医療機関がありますので、県、市町村の障害福祉医療担当窓口、もしくは相談支援事業所にお問い合わせ下さい。

\*その他各種の情報をインターネットでもご覧頂くことができます。

- ・奈良県 障害者福祉のご案内 ホームページ <http://www.shienhi.jp/>  
福祉サービスについての情報を得ることができます。

## ■おわりに

子どもの発達のことについて心配や不安を抱える保護者の相談が多くなり、具体的な支援が求められる事が増え、また昨今では発達障害等の情報や知識が広がってきました。

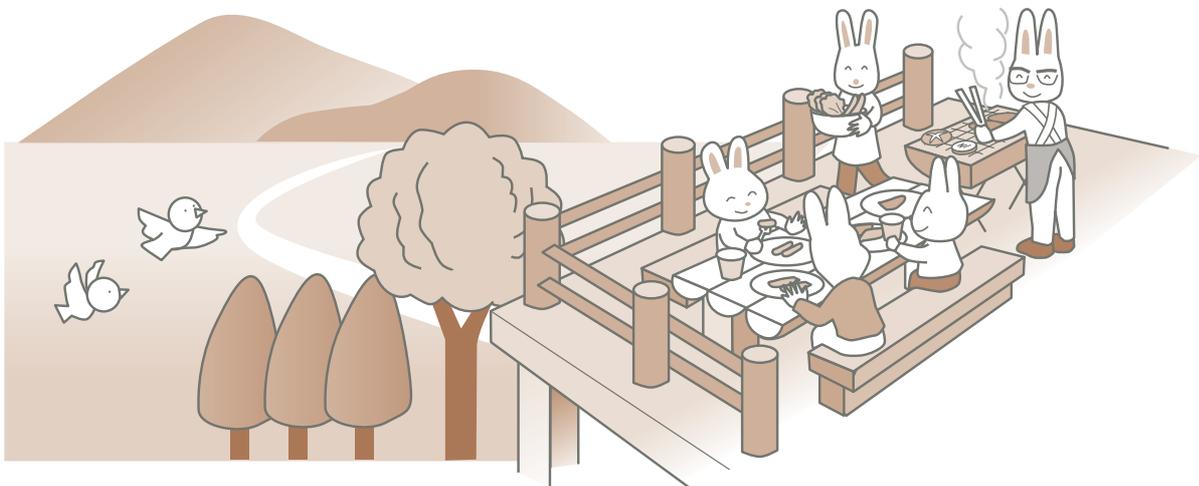
今回のパンフレットでは悩みや相談を集約した内容になっていますが、これはほんの一例であり、もっと個々のニーズに添った具体的な答えが必要とされていると思います。相談支援をさせて頂いているとそつのない答え方では実際の支援には結びつかないことが多々あります。しかし基本的な考え方、捉え方、関わり方、支援の求め方がわかると次へ進みやすいのではないかと思います。

「療育」とは生きていくために必要なことを身につけてもらう子育てではないでしょうか。

パンフレット作成にあたり、ご協力を頂きました「療育」に携わる皆様をはじめ、コラムにお寄せいただきました保護者の皆様にも感謝申し上げます。

平成20年10月

パンフレット作成検討会議



## 療育支援パンフレット作成検討会議

- 奈良県発達障害支援センター であい～
- 東大寺福祉療育病院
- こども支援センター あすなろ
- 橿原市心身障害児訓練施設 かしの木園
- 児童デイサービスセンター クローバー学園
- 香芝市社会福祉協議会 ひまわり園
- 奈良市社会福祉協議会 みどり園
- 生活支援センター S h a k e
- 児童デイサービスセンター 「H A G ・ L I V E」
- ゆらくの里児童デイサービスセンター
- ケアステーション みのり
- 障害福祉サービス事業所 なごみ
- コッペ大淀 地域活動支援センター “みんなの広場”
- 知的障害児施設 県立登美学園
- 知的障害児施設 愛の集い学園
- 総合施設 美吉野園
- 奈良市障がい福祉課
- 十津川村福祉事務所
- 知的障害児通園施設 仔鹿園
- 奈良県福祉部障害福祉課

## 監 修

関西福祉科学大学 大学院教授 櫻井 秀雄

- 発 行 / 平成20年10月
- 企 画 編 集 / 療育支援パンフレット作成検討会議  
〒630-8501 奈良市登大路町30 (奈良県福祉部障害福祉課)  
TEL 0742-22-1101(代表)
- 印刷・製本 / 大倭印刷株式会社  
〒631-0042 奈良市大倭町2-46  
TEL 0742-44-0011
- 表紙絵・挿絵 / 安栖彰一郎(アンデザイン)

この本に掲載されている表紙絵及びイラストの無断転記は禁止します。

